TIPS シリーズの刊行にあたって

「日本語教師のための TIPS 77」シリーズは、日本語教育に関わる方々が、日本語教育のいろいろな分野の知識を整理したり、アイデアを得たりするリソースとなることをめざしています。自分の教室にすぐに応用できる知識・アイデアを提供する本シリーズは、多様な読者の方々に対応できる内容となっています。たとえば、日本語教育に長年携わっている方々にとっては、ご自分の知識を整理、確認するのに使えるでしょう。一方で、日本語教育にこれから携わる方々や、経験が少ない方々にとっては、新しい知識や明日のクラスのアイデアを得るための情報源となるでしょう。大学や教師養成機関では、副読本や参考書として使用できます。また、日本語教育関係者のみならず、英語教育・国語教育といった「ことばの教育」の関係者にとっても役立つ内容が、豊富に含まれています。

本シリーズには、以下のような特徴があります。

- 専門知識がなくても内容が分かるように、専門用語を避け、やさしく説明しつつ、重要な点が分かるように書かれている。
- 教室での実際の教育活動にすぐに役立つように、実践的、応用的な側面を強調している。
- それぞれの TIPS の説明は短めで、素早く読める。
- 必要に応じて、図・グラフ・表・フローチャートなどを入れ、内容を分かりやすくしている。
- TIPS は、教育活動にすぐ応用が利く 77 本を厳選している。
- 執筆者は、各分野の第一線の実践者・研究者である。

本シリーズの各書が提供する TIPS は、「知っておいてほしい」「知っておくと得をする」「知っておかなければならない」などの情報が満載です。本シリーズを通じて、日本語教育という分野の奥深さと幅広さを実感してくだされば幸いに存じます。

監修者
當作靖彦・横溝紳一郎

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

はじめに

博多在住の私は、いわゆる博多っ子の「飽きやすの好きやす」という性質を、かなりの程度備えているようです。つまりは、「新し物好きで、飽きっぽい」ということです。そんな私が(私らしくなく？)ずっと確信し続けていることがあります。それは、「要は『やる気』次第！」という考えです。「どんなに上手に教えることができても、学習者にやる気がないとうまくいかない」という思いを、私は教師になった頃から強く持っています。そして、「教師の言動が、学習者のやる気に大きな影響を与える」という思いも、自分自身の学習者としての体験・教師としての体験から、強く持っています。皆さんにも、「○○先生のせいでやる気を失った」とか「△△先生のおかげで、ある教科が好きになった」とかいう経験がおありではないでしょうか。

学習者のやる気の有無が学習の成果に大きな影響を与え、教師の言動がそのやる気に大きな影響を与えるとするのなら、三段論法で、教師の言動が学習者の学習成果に影響を与えることになります。となると、教師の仕事が学習者の学習成果を上げる支援者である以上、「自分の授業は学習者のやる気を引き出しているか」という観点で、自分自身の言動をふり返り、改善点があればそれを直し、よい点があればそれを継続したり、さらに発展させたりすることが、教師に求められることになります。その繰り返しこそが、教師としての成長につながるのです。本書は「学習者のやる気を引き出しているか」をセルフ・チェックするための観点を、色々な角度から紹介するものです。読者の皆さまが、それぞれの観点で、ご自身の言動や教育哲学をふり返ったり、ふり返りの中での気づきについて語り合ったりするきっかけとなることを、本書はめざしています。

現在私は、大学での教育・研究活動だけでなく、国内外での日本語教育／英語教育、そして博多の様々な教育活動にも積極的に関わっています。それらの活動を通して知り合う数多くの魅力的な

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

方々から、「やる気を引き出すヒント」をたくさん教えてもらっています。そういった多くの方々のおかげで、本書は初めて刊行が可能になったものです。この場を借りてお礼を申し上げます。

最後になりましたが、「執筆の神様が降りてこないと、筆が進まない」というわがままな執筆者である私に惜しみなくご尽力くださった、くろしお出版の池上達昭氏、市川麻里子氏、原田麻美氏に心から感謝いたします。

2011年8月

横溝紳一郎

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

目　次

シリーズ刊行にあたって 3
はじめに 4

Chapter 1　教師の役割について考えるための TIPS 9

1 教師の役割について考えてみよう 10
2 「いい授業」について考えてみよう 13
3 「いい学習者」と判断を下す自分を見つめなおそう 16
4 つまらない授業を想像してみよう 18
5 教え上手について考えてみよう 20
6 クラスルーム運営について考えてみよう 22

Chapter 2　多様な学習者を理解するための TIPS 25

7 学習者の多様性について考えてみよう 26
8 学習者個人の特性について考えてみよう(1)　やる気 29
9 学習者個人の特性について考えてみよう(2)　年齢 32
10 学習者個人の特性について考えてみよう(3)　学習スタイル 34
11 学習者個人の特性について考えてみよう(4)　学習ストラテジー 36
12 学習者個人の特性について考えてみよう(5)　学習不安 39
13 学習者個人の特性について考えてみよう(6)
母語能力、言語間の距離と外国語学習歴 42
14 学習者の学習習慣について考えてみよう 44
15 学習者の教師への期待について考えてみよう 47
16 学習者の学習目的について考えてみよう 50

Chapter 3　多様な学習者に対応するための TIPS 53

17 困った学習者に真正面から向かい合おう 54
18 私語の意味について考えてみよう 56
19 居眠りの理由について考えてみよう 59
20 同じことを何度も言わせる学習者のメカニズムを知ろう 62
21 細かいところまで聞いてくる学習者の心理を理解しよう 65
22 答えようとしない学習者の心理を理解しよう 68

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

23 日本語嫌いの学習者を無理に楽しませようとしないようにしよう 71
24 自分はできると勘違いしている学習者への対処を考えよう 73
25 特定の教室活動に抵抗を示す学習者への対処を考えよう 76
26 理解できない学習者の言動について考えてみよう 79
27 ウマが合わない学習者のメカニズムを知ろう 82
28 学習者のレベル差に対処しよう 85
29 やる気の見えない学習者のやる気を引き出そう 88

Chapter 4　学習者との信頼関係作りのための TIPS 91

30 学習者の名前を覚えよう 92
31 指名の仕方を工夫しよう(1)　列指名と名簿指名とランダム指名 94
32 指名の仕方を工夫しよう(2)　意図的な指名 97
33 指名の仕方を工夫しよう(3)　当て方のバリエーション 100
34 学習者と目線を合わせよう　アイ・コンタクト 103
35 最初の授業を大事にしよう 106
36 学習者間のトラブルについて考えてみよう 109
37 教師と学習者の線引きについて考えよう 112

Chapter 5　教師の言動についてふり返るための TIPS 115

38 自分の姿勢を気にしよう 116
39 自分の立ち位置と体の向きを気にしよう(1) 118
40 自分の立ち位置と体の向きを気にしよう(2) 123
41 自分の体の動きをふり返ってみよう　ジェスチャー 127
42 自分の表情をふり返ってみよう(1)　笑顔 130
43 自分の表情をふり返ってみよう(2)　その他の表情 133
44 自分の発話をふり返ってみよう(1)　声とプロミネンス 136
45 自分の発話をふり返ってみよう(2)　ログセ 139
46 学習者への説明を工夫しよう 142
47 媒介語の使用について考えよう 145
48 学習者への指示を工夫しよう 148
49 学習者への問いを工夫しよう(1)　質問 152
50 学習者への問いを工夫しよう(2)　発問 155

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

51 授業のまとめ方を工夫しよう 158
52 学習者へのことばがけを工夫しよう(1) 励まし 161
53 学習者へのことばがけを工夫しよう(2) 助言 165
54 否定的フィードバックを工夫しよう(1) 発話 168
55 否定的フィードバックを工夫しよう(2) 作文 171
56 肯定的フィードバックを工夫しよう(1) 是認 173
57 肯定的フィードバックを工夫しよう(2) ほめ 175
58 ペア・ワークの組ませ方を工夫しよう 177
59 グループ活動のねらいと留意点を考えよう 180
60 学習者の立たせ方や座らせ方を工夫しよう 183

Chapter 6 教材と学習環境ついて具体的に考えるための TIPS.... 187

61 教材を見直してみよう(1) 文字カード 188
62 教材を見直してみよう(2) 絵カード 191
63 教材を見直してみよう(3) 小道具 194
64 教材を見直してみよう(4) 歌 196
65 教材を見直してみよう(5) 視覚教材 199
66 教材を見直してみよう(6) 映像教材 203
67 教材を見直してみよう(7) 辞書 205
68 教材を見直してみよう(8) 生教材 208
69 教材を見直してみよう(9) 教室の外に飛び出そう 211
70 学習環境を見直してみよう(1) 黒板とホワイトボード 215
71 学習環境を見直してみよう(2) 教室活動のタイプと座席配置 218
72 学習環境を見直してみよう(3) チーム・ティーチング 221
73 学習環境を見直してみよう(4) 望ましくない環境下で 224

Chapter 7 学習支援者としての心構えにつながる TIPS..... 227

74 支援者としての教師について考えてみよう 228
75 いろいろな教え方にチャレンジしよう 231
76 学習者の可能性を信じよう 234
77 ことばを教える理由について考えてみよう 236

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

TIPS!

1 教師の役割について考えてみよう

教師の仕事は、どこからどこまでをいうのでしょうか。
教師がすべきこと / できることって、何なのでしょうか。
この根本的な問いについて、考えてみましょう。

「学びの主体は学習者である」という主張は、ある意味当たり前のように受け入れられている考えなのですが、「では、その主体的な学びを実現するために教師は何をすべきか」という非常に根本的であり重要な問いを突き付けられると、即答できる教師は少ないようです。また、教材を研究し授業を工夫して、「よし、こうしよう、ああしよう」と一生懸命になっていくプロセスの中で、皮肉にも、学びの主役である学習者のことが頭から離れていってしまうという「主役の逆転現象」[1] が起こることさえあります。学びの主体が外国人である日本語教師の場合も、このことは当てはまります。

日本語教師の役割は、大きく分けて次の二つに捉えられることがあります。

・日本語学習支援
・生活支援

外国人が心地よく毎日を過ごせるように日本語教師は何をすべきか、という生活支援は、各教師が真正面から対峙すべき非常に重要なテーマです(その重要性は、海外で日本語を教える場合よりも、日本国内の方が、より大きなものとなります)。ですが、本書はクラスルーム運営を取り扱うものですので、日本語学習支援に絞って考えてみましょう。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

TIPS! 7 学習者の多様性について考えてみよう

教室の中にはいろいろな学習者がいます。学習者の多様性とは何か、多様な学習者たちにどのように接すればよいのか考えてみましょう。

学習者の多様性は、3つの構成要素に分けられると言われています[1]。

(1) 学習者個人の特性
(2) 学習と教授に関する文化的伝統
(3) 学習目標

「学習者個人の特性」とは、いわゆる「個人差」です。「学習と教授に関する文化的伝統」とは、学習者が自分の国の文化・社会の中で持っている「学習・教授はこうあるべきだ」「この学習の仕方が自分には一番心地よい」というイメージです。例えば、ある国から来た学習者は、「先生の言ったこと / 書いたことをすべて覚えるのが学習である」という考えを意識的 / 無意識的に持っているかもしれません。最後の「学習目標」とは、「何のために日本語を学習しているのか」が人によって違う、ということです。

一つ一つ詳しく見ていきましょう。「学習者個人の特性」についてですが、人はあまねく多様なもので、それは日本語学習者も同じことです。各人の顔が異なっているように、性格や動機などは各個人によって大きく異なっています。

「学習と教授に関する文化的伝統」についてですが、クラス内の学習者が同じ文化圏・社会から来ている場合は、多様性は多少減る

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

TIPS! 17 困った学習者に真正面から向かい合おう

「困った学習者」って、あまりいいイメージの学習者ではありませんよね。でも、そういう学習者って結構いるようです。どのように考えたらいいのでしょうか。

授業中、学習者は実に様々なことを行ったり言ったりしています。その言動の中には、授業を担当している教師にとって、「望ましくない」ものも多く含まれます。例えば、下記が挙げられます。

・ずっと寝ている。
・授業に遅れてくる。
・指名された他の学習者が答える前に、答えを言ってしまう。
・私語をしている。

こういった言動を「望ましくない」と教師が感じている状態は、教師がその学習者の言動を受容できていないことを意味します。受容できていないからこそ、「イライラするなあ」「授業が思い通りに進められなくて、イヤだなあ」などの感情が生じているのです。では、そういった感情を教師は抱いてはいけないのでしょうか。「教師は聖人君子のようであるべき」という考えもあると思いますが、私はそうは思いません。教師も生身の人間です。自分にとって受け入れられない他人の言動というのは、世の中に数限りなくあるはずです。しかしながら、教室内外で受容できない言動が出てくるごとに大きな声で怒ったり怒鳴りつけたりしているだけでは、事態は一向によい方向に向かわない、というのも多くの教師によって共有されている体験と言えるでしょう。「学習者の言動を受容できない時

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

TIPS!

30 学習者の名前を覚えよう

学習者一人一人の名前を覚えなさい、とよく言われます。どのように覚えたらいいでしょうか。覚えることで、どんないいことがあるのでしょうか。

教室の中にたくさんの学習者がいる場合、学習者一人一人の名前をきちんと覚えることは、なかなか難しいです。日本語教育の場合、耳慣れない外国の名前に出合うことも多く、名前を覚えることはさらに難しいとも言えるでしょう。そんなとき教師はよく、席順で当てたり、視線や手を使って指名をしたり、さらには学籍番号や出席番号などの番号で当てたりしますが、「この先生、名前を覚えていないな」と感じている学習者も少なくないようです。

カーネギー氏は、ベストセラー『人を動かす』[1]の中で、「名前は当人にとって最も快い最も大切な響きを持つことばである」と述べています。確かに、日常生活でも、「ねえ」と呼びかけられるより、「ねえ、○○さん」と名前で呼びかけられた方が、相手に親近感を持てます。となると、教師にとって、学習者一人一人の名前を覚えるのは必要不可欠だということになります。学習者全員の名前を覚えることは、教師にとって職務の一部なのです。

では、人の名前を覚えるためにどうしたらいいのでしょうか。小・中・高の先生方は、学年初めに撮影する集合写真や各児童・生徒の個人写真を持っているので、それを頼りに全員の名前を覚えようとします(私の知人は、この方法で1週間で150人の生徒の名前を覚えていました)。その他にもこんな方法があります[2]。

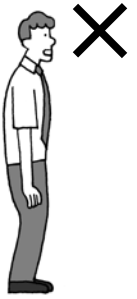
BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

TIPS!

38 自分の姿勢を気にしよう

あなたはどんな立ち方・座り方をしていますか。あなたの体の動き一つ一つが、学習者に対するメッセージを発しています。自分の姿勢を意識してみましょう。

教師は教室内外で、学習者に近づいたりニコッとしたり、様々な行動をとりますが、その基本となるのが、自分の体がしっかりとした姿勢で立ったり座ったりしていることです。ところが、人間にとってまっすぐ立っていることは意外と重労働[1]ですので、例えば、男性には「×」の図のような立ち方をしている人が少なくありません[2]。



このような姿勢は、学習者に「だらけている」印象を与えます。よい立ち方とは、「背筋をきちんと伸ばし、天と地の両方から引力が働いて引っ張られているような意識を持って、両足均等荷重でスッと立っている」姿勢です(「○」の図を参照)。

いつもこういった姿勢でいることはなかなか難しいかもしれませんが、そういった姿勢を保つことは、周りの人に好印象を与えるだけでなく、からだの無駄な歪みをまっすぐにする効果もあります[3]。

教師による学習支援は、立った状態だけでなく、座った状態でも行われます。となると、教師にとって「きちんと座っている」ことも重要だということになります。座り方は、次ページの図にあるような人の気持ちを表しています[4]。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

TIPS!

61 教材を見直してみよう(1)

文字カード

日本語の授業でよく使用される教材の代表格が「文字カード」です。作成・使用に際して、どのような配慮が必要か、考えてみましょう。

「文字カード」とは、文字通り「文字が書かれたカード」のことです。日本語の授業で大活躍する教材の一つです。以下に挙げるような使い方があります[1]。

- 文字の導入
- 板書の一部としての利用
- 五十音図と併用して、動詞の活用練習
- 語彙の提示・導入・練習
- ドリルのキュー(ドリルで文を作る時の助けになる情報のこと)
- 既習項目を使ったゲームの道具
- 活用形の導入・練習のためのアクセント情報つきカード

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

TIPS! 74 支援者としての教師について考えてみよう

教師による学習者の「指導」と「援助」と「支援」はどう違うのでしょうか。用語の違いによる、教師と学習者の関係について考えてみましょう。

「指導」「援助」「支援」の違いについて、こんな説明があります[1]。

「指導」
英語の instruct あるいは teach に相当する。明らかに教師が学習者より高い位置にあって、学習者を指し示し導く、という意味。

「援助」
英語の help あるいは assist に相当する。上下関係のある状態の中で、使われることば。教師の側から学習者を助ける、という意味。

「支援」
英語の support あるいは encourage に相当する。下から支える、という意味。教師は学習者と共にある存在。

こうみると、「支援」とは「教師が上で、学習者が下」という位置関係を否定する考えのようです。「その考えはなんとなく分かるけど、『教師には上に立って教えてほしい』という学習者だっているだろう」と考える読者の方もいると思います。私自身の体験からも、「今は、上に立って教えてほしい」「今は、自分でやりたい」といったいろんな思いを学習者は持つのだと思います。

このことをより深く理解するために、「外国語学習者は5段階で成長する」というコミュニティ・ランゲージ・ラーニング(CLL)の

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers